

令和元年7月29日 17時00分  
資料配布 近畿地方整備局  
足羽川ダム工事事務所

## 第12回「九頭竜川水系足羽川ダム事業費等監理委員会」を 結果概要について

ダムの事業費や工程等を適切に監理し、コスト縮減策やその他実施状況等について意見と助言を得るため、委員会を開催しました。結果概要は別紙のとおりです。

### 1. 開催日時・場所

開催日時: 令和元年7月29日(月) 14時30分～16時30分

開催場所: 足羽川ダム工事事務所

### 2. 委員: ◎荒井 克彦 (福井大学名誉教授)

桑原 美香 (福井県立大学経済学部 准教授)

角 哲也 (京都大学 防災研究所水資源環境研究センター教授)

箱 石 憲昭 (土木研究所 水工研究グループ グループ長)

◎ 委員長(\*50音順・敬称略)

### 3. 結果概要: 別紙の通り

<取扱い> \_\_\_\_\_

<配布場所>

福井県政記者クラブ

<問合せ先> 近畿地方整備局 足羽川ダム工事事務所

副 所 長 よしだ きみのり 吉田 公則 (内線204)

調査設計課長 はやし ひさのり 林 尚典 (内線351)

TEL: 0776-27-0642 (代表)

## 足羽川ダム建設事業に係る総事業費の見通しについて

### 1. 事務局からの説明

■ 令和2年度から本体工事に着手していくのに先立ち、当初計画時からの社会情勢の変化や現地での詳細な調査等により新たに判明した条件などを踏まえ、新たな総事業費の見通しを示した。

■ 今回示した総事業費の見通し

・当初計画時 960 億円 → 変更案 1,300 億円（約 340 億円の増加）

（概略内訳）

- ① 現在のダム事業を計画した平成18年度当時と比べ、公共工事関連単価や消費税率が上昇してきていることなど社会的要因によるもの . . . 約 187 億円の増
- ② 現地におけるこれまでの調査や詳細設計の進捗、工事の実施状況等を踏まえ、所期の洪水調節機能や安全性、工期を確保するために必要となった追加対策にかかるもの . . . 約 180 億円の増
- ③ 本体構造の工夫などによるコスト縮減によるもの . . . 約 27 億円の減

※詳しくは、別添委員会資料を参照

### 2. 委員からの主な意見

- ・ 上記 1. ①社会的要因の増額については、やむを得ない。
- ・ 上記 1. ②について、現時点で想定される最大限の事業費を見込んでおくことは、経験上理解できる。
- ・ 分水施設、原石山や付替道路法面対策など今後の設計が進む中で、代替案と比較しながら引き続きコスト縮減の観点から検討すること。
- ・ 将来の維持管理（土砂管理・運用など）も考慮し、総合的な観点から施設の詳細設計をしていくこと。

### 3. 事務局としての今後の方針

- ・ 令和2年度からのダム本体工事（堤体基礎掘削）着手に向け、引き続き関連工事や諸手続を進める。（なお、8月1日には近畿地方整備局事業評価監視委員会において本事業の事業再評価にかかる審議を予定。）
- ・ 本委員会でいただいたご意見を踏まえるなど引き続き可能な限りコスト縮減を図り、総事業費の抑制に努めていく。